

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270135140
法人名	社会福祉法人 長崎厚生福祉団
事業所名	グループホーム鶴舞苑Ⅱ
所在地	長崎県長崎市魚の町3番27号 (電話) 095-828-3498
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月25日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎港が一望でき、周りは緑豊かな環境の中に位置するホームである。鉄筋コンクリート7階建の一階部分にあるホームであるが、内部は、木の暖かみを大事にした非常に落ち着いた雰囲気、手作りの手芸品や季節の花、人形などがさりげなく飾られており、訪れる者をほっとさせてくれる空間となっている。これは、理念である「笑い声の聞こえるぬくもりの我が家」を作りたいというホーム側の努力の成果と言える。また、各部屋にはトイレと洗面台、電話が備えつけられており、利用者本位の作りとなっている。法人内には、診療所、介護施設があり、連携体制が整っている事は、大きな強みと言える。自己評価表は、全員で作成しており、職員は改善に向けて積極的に取り組んでいる。また介護計画の目標の管理が徹底しており、毎週達成度を記録している。月に1度は利用者の家庭を訪問して報告を行っており、家族に対する細やかな配慮が感じられた。

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	7階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲佐の森診療所 三菱重工長崎造船所病院 山の手クリニック
---------	------------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目はなかったが、改善シートを利用して、職員間で自主的に改善したいと思う項目を話し合っている。具体的には、外出の機会を多くしたいというもので、「年一回は旅行に行く」といった目標を立てており、改善に向けての積極的な姿勢が高く評価できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価表を作成し、管理者がとりまとめる形で評価に望んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催されており、今までに12回行われている。メンバーは、自治会長、利用者、家族、市役所担当者、施設長、管理者である。内容は、行事報告、消防訓練の報告、また事故やヒヤリハット報告、外部評価の結果報告などで議事録が整備されている。今までに、自治会長からの提案がきっかけとなり、知り合いの飲食店へ事前にお願ひし、車椅子でも受け入れる体制を整えていただき、食事が実現した事例がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会はないが、今までに挙がった意見として、「スタッフの中に年配の人を入れて欲しい」との要望があり、これには、法人内の経験豊富な職員を配置して対応している。また、「本人の外出したいという希望を尊重して欲しい」という要望には、見守りながらできるだけの外出行支援を行う事で対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、法人が町内の避難場所になっている。また、龍踊りを招いたり、夏祭りや敬老会に地域の方を招待して交流の場を設けている。中学生を始め、ボランティアも数多く受け入れている。只、ホーム側から地域の行事に参加する機会が少なく、今後双方向での交流の取り組みが期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑い声の聞こえる ぬくもりのある我が家を…」という理念は、職員全員で話し合って作りあげたものである。地域の方々と交流しながら、ホームが利用者にとって「我が家」となるよう日々のケアに望んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員の思いを反映して全員で作ったものである。新人が入社した際は、管理者が理念に込められた意味について直接指導を行っている。毎日の介護では「笑顔」の大切さを忘れないよう利用者と接している。また月1回のミーティングでは、理念に沿った介護ができていないかを振り返り、確認合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、法人が町内の避難場所になっている。またおくんちに龍踊りを招いたり、夏祭りに地域の方を招待して交流の場を設けている。中学生を始め、ボランティアも数多く受け入れている。只、ホーム側から地域の行事に参加する機会は少ない。	○	今後地域の方との双方向での交流の取組が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価表を作成し、管理者がとりまとめる方法で外部評価に望んでいる。		

グループホーム 鶴舞苑Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度開催されており、今までに12回行われている。内容は行事や消防訓練の報告、また事故やヒヤリハット報告、外部評価の結果報告などである。会議の中での自治会長からの提案がきっかけとなり、知り合いの飲食店へ事前にお願ひし、車椅子でも受け入れる体制を整えていただき、食事会が実現した事例がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長崎市役所の高齢者すこやか支援課とは利用者の入所の際の相談にのってもらっている他、日常的にも相談するなど、行き来する機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、訪問時は勿論、月に1回自宅を訪問し、利用者の暮らしぶりや健康状態について報告をしている。また、3ヶ月に1度の割合で、ホーム通信を発行している。預かり金については、毎月書面で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申立の仕組みは重要事項説明書に記載し、入所時に家族へ説明している。第三者委員が設置されている事も明示されている。またロビーには、苦情受付箱が設置されている。運営推進会議で家族から「職員に年配のスタッフを配置して欲しい」との希望があり、これには、経験豊富なベテランを配置して対応している。外出を希望する声には、見守り体制を強化し支援を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はいないが、法人内の施設間での人事異動があり、担当が変わる事がある。その際は、職員が以前の担当者の勤務先へ「会いに行きましょう」と言って連れて行ったり、朝の出勤時に声をかけるよう心がけている。		

グループホーム 鶴舞苑Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、採用後1ヶ月以内に新人研修を受けている。特に理念については、施設長よりマンツーマンで指導を行っている。外部からの研修の通知は、全員に回覧で回し、希望者を募っている。認知症や感染症に関する研修が多い。研修の報告は月1回のミーティングにて、報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には参加していないが、近隣の同業者とはお互いに見学や研修を行って、交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、短時間ホームに遊びに来てもらったり、ショートステイを利用していただいたりして、徐々にホームの雰囲気に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護は人を育てる」という言葉を念頭に置き、介護を通じて自分自身を高めるという姿勢で利用者者に接している。職員は、料理や掃除の仕方や野菜の作り方を始め、物を大切にすることを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に調査をした「基本情報シート」や日々の生活の中から利用者の得意、不得意なもの、好きな物、嫌いな物を把握し、嫌な事は決して無理強いないよう心がけている。意思疎通が困難な方には動作や表情から、思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴は、東京センターの「私の基本情報シート」他を活用して作成し、職員全員が共有するようにしている。介護計画は「援助計画」と呼んでおり、本人、家族から希望を聞き取り、いつ、どのように行うか具体的に計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に1度見直しを行っており、その際は家族から確認の署名と押印をもらっている。「援助計画（介護計画）」で立てた個々の項目は、ケアチェック表に転記し、一週間ごとに到達度をチェックし、必要に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「医療連携加算」と「短期利用共同生活介護」の指定を受けている。ショートステイは、利用前の体験入所に利用していただいている。日常の買い物や外出の支援も行っており、旅行も計画している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医も尊重するが、基本的には、法人内にある診療所が日常の健康管理全般を行っている。心療内科、眼科、歯科は、提携医療機関にて本人の希望に添って受診の支援をおこなっている。診療料内科や歯科医院からは、往診も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に2ページにわたって「重度化した場合における対応に係る指針」が記載されており、ホーム側の看取り看護に関する考え方や流れについてわかりやすく記載されている。職員間でも看取りに関して話し合いがなされており、共通の認識を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族に対しては、入所時に重要事項説明書の中で「個人情報の利用目的」を示して同意を得ている。職員に対しては、入社時に個人情報の扱いに関しては「誓約書」の提出を求めている。職員は利用者を傷つけるような言葉は、決して使わないよう認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重しながら見守る姿勢が職員間に浸透しており、手伝いにしても決して無理強いをしないように心がけている。		

グループホーム 鶴舞苑Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物には、2～3日に1度位の割合で近所のスーパーと一緒に出かけている。調理、配膳、後片付けも利用者のできる範囲で積極的に参加している。職員もできるだけ見守りの姿勢を大切にして本人の自発性を重んじている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば、入浴は毎日できるようにしており、体調の悪い利用者には、足浴や清拭で対応している。浴槽には補助となる板や椅子を用意して、またぐ際に利用者の負担にならないよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備では、職員がさりげなく手伝いをお願いし、一緒に盛りつけや配膳を手伝っている利用者も多い。また生け花やビーズ手芸を楽しむ方もいる。作品は廊下に飾ってあり見る人の目を楽しませてくれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	運営推進会議のメンバーの提案で市内の中心部の喫茶店等へ事前に説明を行って理解を求め、利用者を受け入れてもらっている。また職員からの提案で年に1回は旅行に行く目標も立てている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの入り口には、日中は鍵をかけていない。共用のロビーやホームの外へ出て行く利用者については、職員がさりげなく見守るようにしている。		

グループホーム 鶴舞苑Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の建物が、地域の避難場所に指定されている。また、消防訓練は消防署立会の基、年に2回行われており、夜間想定でも実施されている。記録は「消防訓練避難実施要項」に記載されている。地域の消防団とも連携を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分摂取量は記録している。食事は法人内の栄養士の指導を受けており、バランスの取れたものである。調理方法は、一人一人に合わせて工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の総合玄関ホールには、利用者誰もがくつろげるテーブルが置かれている。ホームに通ずる廊下にも人形が飾られたり、入り口には暖簾を下げ、入りやすい雰囲気作りをしている。長崎港を見下ろすスリピングの周りに居室が配置されており、利用者が作ったビーズの作品や花がさりげなく飾られている。脱衣場は、洗濯室と兼用となっており、介助しながらのスペースとしては、やや狭い。	○	脱衣場が、洗濯室を兼ねている為、入浴の支援を行いやすくする工夫が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が入居前に使っていた物を持ち込むのは自由で、タンスや椅子、仏壇が持ち込まれている。ベッド周りやタンスの上には、各人の好みで写真や人形が飾られておりほっとできる居室となっている。また洗面台は、絵柄入りの陶器製になっているなど、細部にまでホーム側の心配りが感じられた。		

※  は、重点項目。